

CASBEE[®] 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンス東九条西明田町新築工事	階数	地上7F
建設地	京都市南区東九条西明田町27番、30番	構造	RC造
用途地域	準工業地域, 準防火地域	平均居住人員	122 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2019年1月10日
敷地面積	1,116.61 m ²	作成者	株式会社礎一級建築士事務所 平野 哲也
建築面積	423.02 m ²	確認日	2019年1月15日
延床面積	2,801.77 m ²	確認者	株式会社礎一級建築士事務所 平野 哲也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	高効率機器及び高断熱仕様の断熱材を積極的に採用し、省エネルギー性に配慮したほか、冷暖房負荷を軽減することで、環境負荷の低減を図った。	その他 特に無し
Q1 室内環境	居室部分には自然換気が十分に確保できる大きさの窓を確保し、快適性の向上及び自然エネルギーの積極的利用を図った。また、F★★★★の部材を積極的に採用することで、居住環境の向上を図った。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内には可能な限り緑化を設けることで、周囲に開けた建物となるように配慮した。
LR1 エネルギー	断熱材は高断熱性能のものを使用することで、過半の住戸は品確法等級4を満たす性能を確保した。また、建物内設備にはLED照明等の高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を低く抑えることにより、長年にわたる環境負荷を軽減し地球温暖化の防止に付与できる建物となるように配慮した。
Q2 サービス性能	配管材料については耐久性の優れた材料を採用し、維持管理が容易な室内の配置計画及び材料の選定を行うことで、性能が長期間にわたり保たれるように配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	一部の部材にはリサイクル材を使用したほか、外壁にはGL工法を採用することで、将来の更新及び修繕の計画が容易となるように配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される